




飛ぶ種の秘密

校法人聖英学園 江南第二幼稚園（愛知県江南市）

[3～5歳児]

<きっかけ> 異年齢でかかわれるようにして、近隣の公園に行く。公園でタンポポを見つけ、3歳「ふ～って吹くと（綿毛が）飛んでくよ」5歳「この白いのは種なんだよ！」5歳「知ってる！風で遠くまで飛んでいくよ」4歳「どこまで飛んでいっちゃうのかな？」などと話し、花を摘んだり綿毛で遊んだりする。

子どもの様子	
タンポポの不思議	<p>3歳「誰が育てるのかなあ…？」 5歳「放っておけば育つんじゃない？」 5歳「でも、幼稚園のお花はみんながお世話しなきゃ死んじゃうよ」 4歳「神様が育てるんだよ！」 5歳「神様が育ててくれるんだったらそこに落ちればいいのにな（飛ばなくてもいいのに）」 5歳「枯れちゃう前に種を飛ばさなきゃいけないんじゃない？」 3歳「強～い風が吹かないと飛ばないよ」 5歳「好きな場所にタンポポは行けないから飛ぶんじゃないの？」 4歳「白いフワフワの所が飛ぶためにあるんだよね」 5歳「じゃあ、僕もフワフワ持ったら飛べるかな？（笑）」 4歳「えー！？重いから無理だって～！」 5歳「だって、こんなにたくさん種がついてるから大丈夫だって！」 4歳「種って何個ついているのかな？」 4歳「100個！」 5歳「1000個！！」 5歳「お花は1個だったのに、種っていっぱいできるんだね」 5歳「花弁の数と同じなんじゃない？」 4歳「え～、数えたことあるの！？」 5歳「ないけど、そうかなあと思って・・・」 5歳「あとね、花は黄色なのに、綿毛が白いのも不思議・・・なんで黄色の綿毛じゃないのかな？」 4歳「不思議がいっぱいだね！」</p> 
タンポポの秘密追求 5歳	<p>・野菜の種や苗を買いに行き育てる。野菜とタンポポの生長を楽しみながら、違いを気にしたり話題にしたりする。 ・タンポポの種をペットボトルに蒔く。ペットボトルのタンポポが思うように育たないことから、興味や疑問を深める。 ・親子活動でいろいろな飛ぶおもちゃ<パラシュート、飛行機、ロケット、フリスビー>を作り楽しむ。 ・東山植物園に風散布タイプの種子について問い合わせたことから、子どもたちが植物園内にある多くの種子に触れる体験をし、説明を受けることになった。専門家によるいろいろな種を飛ばす実演を見て飛ぶ種の秘密に触れ、子どもたちは珍しい種に夢中になる。 「ペラペラだよ、なに、それ！」「それ種なの？」 「見たことないよ、本当に飛ぶの？」「触ってみたい！」 「タンポポのおバケだ～！」 一人の子どもが種を飛ばしてみると…「タンポポと同じだ！フワフワ飛んでる！」 「それもフ～ってやったら飛ぶの！？」 「茶色の種のところはタンポポより大きいよ！」 その他にもサンドペーパーバイン・アオギリ・マツ・トウカエデなど飛ぶ種の仲間を飛ばしてみた。 「飛ぶ種ってこんなにいっぱいあるの！」 「クルクル回って落ちる～！」 「これ、遠くまで飛ぶよ！」 「この間、おもちゃ作った時と同じだね、いろんな（飛び方）のがある」 「マツボックリに種がついてるなんて知らなかった～」 「こんなにあっちこちに種が土に落ちたら、いっぱい花が咲くよね！」 「飛ぶのは、種の作戦なんだよ！いっぱい仲間を増やしたいから！」 「だから、種は自分で飛んで、自然に育ててもらってるんだね！」 「動物は好きな場所に自分の足で自由に行けるけど、タンポポは動けないから種が好きな所へ飛んで行くんだよ」 「それでどんどん増えていくんだね」</p>  

みどころ

子どもたちにとって身近で親しみのあるタンポポにかかわることで、様々な気付きや不思議さ、疑問を感じ、興味を深めています。子ども同士の発想や気付きを大切にして興味深くかかわる機会を重ねることで、探求が深まっていくことが伝わってきます。